



# 保育士を目指すきっかけ

社会福祉法人 麦の芽会 けやき保育園

蛭沼 君枝

## 工業高校建設科に入学したけど

私が保育士を目指したきっかけは、高校の先輩から言われた一言でした。高校は工業高校の建設科に進んだ私ですが、建設業を学んでいくうちに向いていないと感じ、卒業後の進路に悩んでいました。そんな時、先輩から「子どもが好きなら、保育士がいいじゃない？」と言われました。家族に相談すると大賛成され、その先輩が通っていた、保育士養成をしている短期大学に進学しました。

## 衝撃の保育園アルバイト

短大1年の4月、また先輩から連絡があり、みどり市のたけのこ保育園で土曜保育のアルバイトをしないか、と誘われました。私は「保育の勉強ができるなら…」という軽い気持ちで了承しました。

そしてアルバイト初日、「どんな保育園なのかな、どんな子どもがいるのかな」と、緊張しつつも期待を膨らませて、たけのこ保育園に向かいました。いざ、園庭を見てみると、園庭に穴がいっぱい！！

子どもたちはみんな半袖半ズボン！！園庭の隅には畑があり、その横にはウコッケイとウサギの小屋が！！（しかも2歳児の子がウコッケイを普通に持ち上げている！！）ウッドデッキにはカメが入ったタライ

が！！…衝撃を受けました。私がイメージしていた保育園とは正反対だったので、たけのこ保育園で見えるものすべてに驚きました。でも、園長先生の保育方針、子どもに対する思いに魅力を感じていました。そして、公立保育園の民間委託を引き受けた園長先生がそこに移り、けやき保育園と改称したのを機に、私もけやき保育園に就職しました。

## 初担任は0・1歳児の混合クラス

けやき保育園での初めての担任は、0・1歳児の混合クラスでした。まだよちよち歩きやハイハイの子どもたちが多く、この子たちとどのようにコミュニケーションを取ったらよいか、また、この子たちにとって初めての社会生活で、どうしたら楽しむことができるのか、悩む日々でした。

慣らし保育期間中は在園児も環境の変化で泣きながら登園し、保育室には泣き声が響き渡りました。仕事

が終わって家に帰り、布団に潜っても泣き声が耳に残っている日もありました。正直、この時期は、仕事を覚えることに必死だったこともあり、「しんどいなあ」と思うことがありましたが、毎日ママと離れて、知ら



ない大人や知らないお友達と過ごさなければならぬ子どもたちはもっと不安で、もっとしんどかったらうな、と今では思います。自分のことでいっぱいだった当時の私が担任で、子どもたちは余計に不安だったのかもしれない。と、当時の自分に反省です…。

## 子どもたちから学ぶ

また、私のクラスでは、自分の気持ちを伝えられないもどかしさから、子ども同士のいざこざに発展することがありました。

例えば、おもちゃで楽しそうに遊んでいる子どもがいます。それを見ていた別の子どもは、そのおもちゃがとてもいいものに見えてしまい、その子が使っていたおもちゃが欲しくなる…。その後の展開は、みなさんのご想像の通りです。大人にとっては「たかがおもちゃ」とか、「なんでこんなもので…」と思われがちですが、子どもにとっては

とても大事なもののなのです。子ども同士が言葉で自分の気持ちをうまく伝えられない時には、大人が仲裁に入り、その時の状況を子どもの表情や行動から読み取ったりして子どもの気持ちを代弁することで子ども同士の距離を少しずつ縮めていくことが必要だと学びました。そして、子ども同士での遊びも大事ですが、保育者と一緒に遊ぶことで子どもの遊びも豊かに展開していくと感じました。また、未満児クラスは複数担任ということもあり、保育をしていく中で保育者同士が呼びかけ合い連携していくことも大事だと学びました。給食でアレルギーがある子には、保護者はもちろん、栄養士とも情報交換をし合い、安全に食事が取れるようにしていくことも保育の一環であると感じました。

## 子どもの潜在能力に感動

大変だったことだけではなく、嬉しかったこともありました。1歳児のある女の子に髪の毛を縛ってあげた時、その子が家でお母さんに「きみちゃんが、縛ったん」と、嬉しそうに話してくれたそうです。大人が感じ得ないことでも、子どもは自分の気持ちを覚えたての言葉で伝えようとする姿に感動したと同時に、子どもが持つ潜在能力のすごさを学びました。それだけではなく、ハイハイをしていた0歳児の子が自分の力で立ち上がり、歩こうとする姿にも子ども



の成長の強さを感じました。この世に産まれて、まだ1、2年しか経っていないのに、あんなに小さな体で、とて

つもなく大きい力を持っている子どもは本当にすごいと思います。

## 子どもたちと共に成長

保育士一年生として、保育園一年生である赤ちゃんクラスの担任になり、穏やかな気持ちで保育することが出来てよかったと思います。子どもが成長することで、また悩んだり笑ったり、時には叱ってしまうこともあります。そうしていく中で自分自身もまた一つ、成長させていただけることに感謝したいと思います。今年度は年長クラスの担任として。更なる成長を目指して日々邁進してまいりたいと思います。